

## 地域を越えた歴史文化の視点

## 36. 地名の生きるまち

## 【ストーリー】

私たちが何気なく使用している地名。実はこれらの歴史はかなり古く、中世に遡ると推定されるものも少なくない。

地域それぞれが持っている自然的背景のもと成立したものや、歴史的な事由によって成立したものの、さらには伝承によるものなど、その成立原因は様々であるが、私たちが日常的に地名を呼ぶことによって、未来への継承に一役買っていること

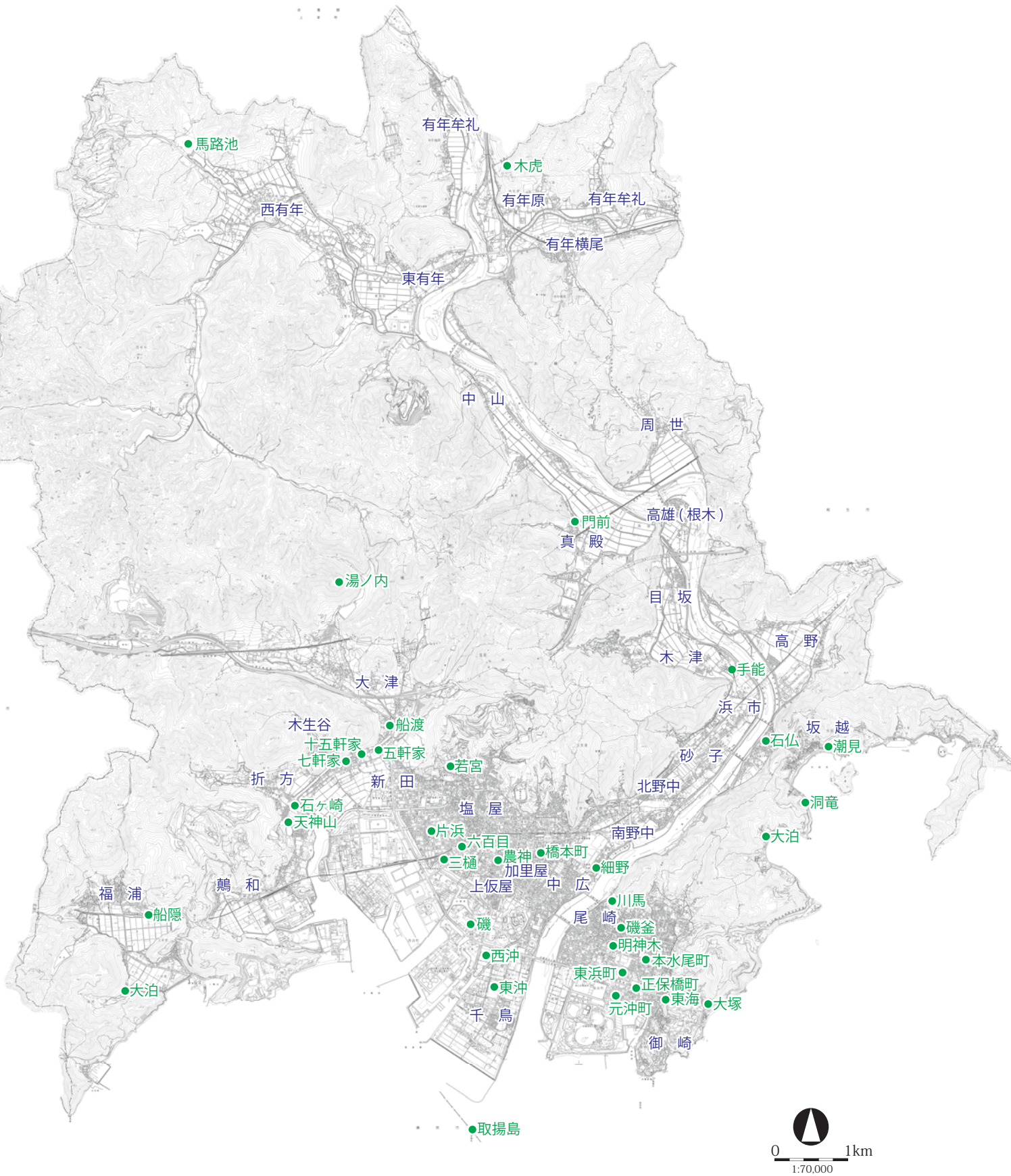
- 東有年・西有年** 傍示ヶ鼻を境として分けた。有年は田畑の「畝」が転じたものか。
- 馬路池** 山越えのため馬が用意された「馬路」の近隣の池であったため。
- 木虎** 榎原新田開拓に際し藩主から「意気虎の如し」と褒められて姓を与えられたためという。
- 有年牟礼** 古代朝鮮語の「山」が起源か。
- 真殿** 13世紀に土豪真殿氏が住んでいたためという。
- 門前** 15世紀に安楽坊の門前であったため。
- 周世** 洲瀬か。かつては周勢であった。
- 根木** 周世八幡神社の神官（禰宜）が住んでいたためという。
- 木津・手能** 千種川河口の材木集積地であったという。大工村には手能（手斧）の地名も残る。
- 加里屋・上仮屋** 明応・永正（1492～1521）年間に雄鷹山の西の加庄村から人々が仮の家をつくって移り住んだためという。上仮屋は「上」＝侍屋敷。
- 南組・西組・北組・東組** 旧城下町を方位で区分したもの。
- 農神** 森時代に農神社があったため。
- 橋本町** もとは池田時代の船つなぎ場という。浅野長直が慶安2（1649）年に埋め立てた。
- 中広** 中世以来の中村の名による。
- 磯** 森時代初期に開墾した塩田。
- 西沖・東沖** 大正6年から耕地整理事業で整備された敷地。
- 千鳥** 千種川河口に浜千鳥が多くいたため。
- 塩屋** 製塩のための施設（塩屋）があったため。
- 六百目** 塩屋の上田で一反六百目の値打ちから。
- 三ツ樋** 池田時代の古塩浜で片浜・加藤・新川の三樋門があったため。
- 片浜** 浅野時代の承応2（1653）年の開浜。
- 若宮** 京都若宮神社の分霊を祀っていたが、明治42（1909）年に荒神社に合祀された。
- 新田** 浅野長直が新田開発をした。
- 五軒家・十五軒家・七軒家** それぞれ江戸時代に入植した家数による。
- 大津** かつてこの一帯は海で、港であったため。

を考えると、今も私たちが歴史の真ただ中にいることを実感させてくれる。

特に赤穂では、江戸時代の事象に由来する地名や、塩田に関する地名が多く残されており、近現代に成立した町名であっても昔の地名を採用したり参照したものも少なくない。

地名を見れば、その地域の自然や歴史が想像できるまち。赤穂では今も地名が生きている。

- 湯ノ内** 往昔は山中に湯がわき出ているという。
- 船渡** 対岸の長尾と舟で交通していたため。
- 天神山** 天神社があったため（明治後期に移転）。
- 石ヶ崎** 江戸時代の中頃までは大石の山が海中に突き出ている景勝地であった。
- 鷓和** 明治9（1876）年に真木村と鳥撫村が合併した際、頭字の真と鳥を合体させて名づけた。
- 大泊** 入江であって船を繋いでいたという。
- 船隠** 古新田の干拓前の入江であり、船を風から隠す場所であった。
- 水尾** 塩田に入り込むように築かれた水路（水尾）にちなむ。
- 坂越** 鳥井坂を越して坂越浦に行くことにちなむ。秦河勝が「難を避け来し地」の説もある。
- 潮見** 坂越湾内の鯉漁の旗振り場であったためという。
- 石仏** 現存する石塔から。近くの荒神社に移しても、いつの間にか元の場所に戻るといふ。
- 洞竜** 菅原道真が大宰府左遷の際に逗留したためという。大泊も同じ。
- 浜市** 地勢から古代は千種川河口であって魚市があったためという。
- 細野** 南野中と中村にはさまれた細い帯のような形のため。明治26（1893）年の千種川改修によって半分が河川敷となった。
- 西ノ町・南ノ町・東ノ町・北ノ町** 宝専寺を起点として町割りされたもの。
- 大塚** 古墳があり、弁慶穴とも言われた。
- 明神木** 応神天皇が筑紫から帰途、船つなぎしたと伝える。
- 川馬** 川端と馬場町の頭文字をとったもの。
- 磯釜** 磯ノ橋と釜屋本町の頭文字をとったもの。
- 御崎** 三崎山に由来。
- 東海** 江戸中期に小舟が出入りしていた（渡海）ためか。
- 取揚島** 江戸初期に播磨・備前国の間で島の領有権争いがあり、幕府が取り上げたため。
- 正保橋町** 浅野長直入封の正保2（1645）年の年号にちなんだもので名づけられた正保橋（昭和3（1928）年設置）から。



主に、赤穂市 1985 『赤穂の地名』 記載の地名から抜粋。